

2019年度 学校評価票(総括)

I. めざす学校像(ミッションステートメント「建学の精神」)(長期的目標) 本学の建学の精神は、キリスト教精神である「自由と愛」です。自由には他者への愛と責任がともないます。「自由」とは一人ひとりの人格と主体性を尊重すること。「愛」とは互いに仕え合いながら他者と共に生きることです。この自由と愛の精神は、単にキリスト教の立場だけでなく、全ての人間が一致する普遍的な理念であり、人類共通の目標です。人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想を目指してチャレンジしつづけていくこと、それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神であり、「世界の市民」への道なのです。					
--	--	--	--	--	--

II. 最重点目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1. 建学の精神を日常にする	(1)本校の特徴・特色、アイデンティティーを内外に押し出す	(1)①学校説明会や集会などで建学の精神の積極的に取り上げる話をする ②キリスト教主義に対する理解を深める	(1)①各集会などで積極的に話題にする②朝礼時の聖書の話以外にも、授業以外の場面でもミッションスクールとしてのカラーを押し出す工夫をする	①○ ②○	中高の学校説明会等の来校者が昨年より336名増加し、より多くの人に本校の特色を理解してもらえた。
2. 大学合格実績の向上	(1)自習室の充実＝自分で勉強できる生徒を育てる (2)キャリア教育の充実＝将来への夢・モチベーションを高める (3)高大接続、入試改革、グローバル人材育成への対応も視野に入れる	(1)①プレミアム自習室のソフト面の整備。自習環境の整備。 ②教科指導との連携強化 ③手帳などを活用した自学自習の習慣の確立 (2)①キャリア教育についての理解を深める ②プロビデンスデーの充実 (3)①高大接続などの学習会を開催し理解を深める	(1)①自習室の利用率向上を目指す。②授業見学を進展させ、各教員の授業研究の場となる。③活用率の向上 (2)①教員の意識向上②アンケートでためになった、良かったが80%以上を目指す。	(1)①○ ②○③○ (2)①○ ②	自習室を増設したことにより利用者が増加した。授業見学も1・2学期で各1回実施することができた。学校に対する満足度は中学87%・高校94%であった。
3. いのちの教育のさらなる推進	本校が取り組んできた「いのちの教室」の働きと、これに関連する諸委員会を統合し、生命の尊さ、かけがえのなさと共に、人知を超える「いのち」の神秘を知る心を育てる。また人権的な面からは自他の尊厳を大切にするための言葉・行動・マナーのあり方を考える機会も設けたい。	これまで独立していた「宗教教育」・「人権教育」・「保健指導」・「いのちの教室」各分野の独自性を生かしつつそれらを有機的に関連させたプログラムを実行する。具体的には下欄「いのちの教育委員会」分掌に示す通り。	生徒・保護者・教職員自身の実感を伴うものとなるよう学校評価アンケートでの評価を一つの指標とする。	○	宗教教育および人権教育は、たがいに連携しながらテーマなどを決めていくことができた。映画観賞会での候補映画選定などにおいても、人権と宗教との両面から検討することができた。

III. 中期的目標(3年が目安)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1. キリスト教精神をたいせつにする	キリスト教精神への理解と共感の幅を広げる。またキリスト教教育・行事等を通じ、他者と自分自身を大切にできる心や寛容の心を育む	①朝の礼拝を大切に。②祈りについての理解を深める。③キリスト教行事への理解をより深める	①朝の礼拝の静粛を保つ ②教職員・生徒もお祈り・司式・奏楽ができるように。 ③参加しやすい、また少しでも喜びのある行事にする。	①○ ②△ ③○	①教員の理解と協力が年々深まり、静粛が保てるようになってきている。 ②高校においては自治会執行部を中心に礼拝によく関わってくれるようになったが、今後は中学の木曜礼拝などで生徒の自主的な礼拝進行などを心がけていきたい。
2. 授業をたいせつにする	①ベル着の徹底 ②自習課題と振り替え授業の充実 ③授業見学の発展	①ベル着の徹底②自習課題と振り替え授業の充実③授業見学の発展	①相互で確認②連絡方法の再検討 ③担当教員の打合せの充実	①○②○ ③△	②は教務部員による時間割変更で対応した。③は教科主体で実施したが実施状況に差が見られたようだ。
3. 生活習慣の確立	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止 ④提出物の徹底 ⑤インターネット上のトラブル防止 ⑥携帯電話の使用マナーの徹底	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③遅刻管理システムの活用 ④提出状況を通して、学力の向上や信頼関係の構築につなげる ⑤ネットリテラシーを学ばせ人の気持ちを考えるよう指導 ⑥使い方を指導し、マナーの会得や学習時間を確保させる いずれの項目とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③昨年比数値 ④反省文の回収 ⑤⑥問題件数の減少	①△ ②○ ③○ ④○ ⑤○ ⑥○	①自治会指導部とのさらなる連携が必要 ②～⑥概ね良好ではある。今後も継続して指導が必要。
4. 活発な自治会活動の推進	①自主規律の確立 ②自治活動の活性化 ③学校行事の発展・教員の役割分担	①自主規律HRの年間計画作成。 ②HR委員会、評議委員会、文体連の役割分担、実務遂行への指導。 その他自主活動の活性化 ③文化祭委員会の活動計画への指導。各行事の目標を明確化。 事前からの教員業務分担を実施。	①執行部、各委員会活動の年間計画作成 ②活動目標、年間計画、総括 ③各行事の実行委員の獲得と意識化・役割の明確化	①△ ②○ ③○	①自主規律HRを通じて、自主規律の確立を目指しているが、毎回HRの題材を選び準備するのに苦労した。生活指導部ともさらに連携をして、より良いものを目指したい。 ②③は年間を通して概ねうまくいったように感じる。文化祭等では自治会指導部以外の先生方にもそれぞれの役割をお願いして、協力を得ることができた。
5. 進路について	①面談(担任・教科担当)の充実 ②進路選択の多様性 ③自学自習への指導	①面談の恒常化・活性化 ②進路イベントの計画的実施 ③学習すること自体への意義や理解を深める	①生徒の反応、年間面談回数 ②計画的にそれぞれのコースに応じた取り組みを、年間の展望に基づいた「流れ」を作るため適宜行う ③何のために学ぶのか、学べることに感謝する心を持つ意識付け、そしてそれが将来への第一歩であるという認識を持たせる	①○ ②○ ③△	①実際の面談は言うまでもなく、ゲーグルクラスルームなどのIT環境を活用して生徒とのやり取りを緊密にすることができた。 ②生徒対象の進路イベントだけでなく、志望理由書の添削指導に関する教員対象の講演会を実施する等、従来からやっていたものプラスアルファの取り組みができた。 ③どうしてもセンター最終学年と言うこともあって、「現役で合格できる大学」を目標にしてしまう生徒も多く、本来あるべき目的意識をもった大学進学ではない形で受験を終えてしまう傾向が見られた。
6. 中学の課題	①大学進学を見据えた学力向上②生きる力をはぐくむ行事の精選・発展③受験生の増加	①授業力の強化と放課後の取り組みの充実②昨年度に続き行事の見直しを行う。③広報活動の充実・奨学金制度・英語入試などの検討・プレテストの発展	①学力推移テスト②行事検討会議の充実③受験生の増加	①△②△ ③△	①一貫コース会議にて学力推移調査の検討会を行った。また、この間の結果の推移も全体で共有した。放課後の取り組みでは英語数学の特別補習を実施。次年度はさらに塾などと連携して発展させる。②行事検討を引き続き行う。③奨学金制度は導入したが入学はなかった。次年度は対象を広げる。
7. 入試広報の充実	受験者数、入学者数を増やす。	高校はガイドラインの見直し、中学は2018年度入試の一貫コースの大学合格実績のアピールを行う	受験者数、入学者数の数。	①○②○ ③○	受験者数・入学者数増加の目標を達成することが出来た。
8. いのちの教育の推進	これまで委員会ごとに分かれていた分掌を、3年かけて少しずつ一つにまとめ、丁寧にまた効果的に実施できるようにしていく。一年目の本年は、かつての分掌を引き継ぎつつ、まとめた方が内容も深まり効率化も図れる業務のあり方を見極めていく。	委員会内外での話し合いでの意思疎通。	年末の学校評価アンケートでのフィードバックを目安とする。	○	A「宗教と人権」、そしてB「保健指導といのちの教室」のそれぞれの連携は深められたが、AとBとの連携はその取扱う内容によってなかなか連携が難しいことがわかった。来年度は、2020年度からは、AとBそれぞれをまとめて行うこととなった。
9. その他	①キャンパスの整備につとめる	①自習スペースのさらなる充実②F館の老朽化に伴う中長期的計画③その他施設の充実	①教員の評価②生徒保護者の満足度など	①○②× ③△	自習室はタイプの違うものを2種類用意できた。来年度は新食堂のスペースなどを利用しさらに充実させたい。F館の老朽化に対する対策は具体的に進めることができなかった。来年度の課題としたい。大学の新棟に関するアンデレ館の遊及工事では7階職員室を拡充、赤本資料室を造設することができた。

IV. 各学年別目標(中学職会・担任会)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
----------------------	----------	---------------	----------	------	-----------------

中学1年	1. 基本的な生活習慣の確立2. 学年全体の学力向上	遅刻、欠席者に対する声かけ、欠席が続く生徒に対する電話連絡。	長欠者なし	(1)△(2)△	入学当初は緊張感を持って生活していたが、学期が進むにつれて、特定の生徒であるが、遅刻が目立つようになった。成績上位者生徒と下位生徒の差を無くしていくよう努めた。また、家庭環境など色々な原因があったが、転学者が多く出たのが残念だった。
中学2年	(1)生活習慣の確立 (2)学年全体の学力向上。	(1)遅刻・欠席を減らし、規則正しい生活を身につけさせる (2)中上位生徒はより意欲を持って自主的な学習に取り組ませる。学力不振の生徒は、提出物の徹底、基本・基礎事項の徹底。	(1)遅刻数・欠席日数 (2)模擬試験	(1)△ (2)○	(1)不登校生徒のうち数名は少しずつ改善がみられているが、寝坊や数分の遅刻など、自主規律が身につけていない生徒が一定数居るのが課題である。 (2)特に選抜コースでは自覚が芽生えてきたのか、ほぼ全ての生徒が提出物を含め授業に対する取り組みがきちんとできている。学力不振の生徒は、学習に対する意欲がまだ高くない。
中学3年	進路選択に向けた意識作り	大学見学、職業体験等	夏の勉強合宿時の大学訪問、学部学科調べを通じ、自分の夢をできる限り明確な形にする	○	大学訪問は集合時間に遅刻するグループもなく無事終了することができた。学部学科調べでは多くのことを調べポスター作成を行った。クラスの発表や学年での発表をすることで皆で調べたことを共有することができた。
高校1年	(1)学習習慣の確立 (2)生活習慣の確立 (3)ICT教育の推進 (4)人権教育の推進	(1)授業やHR・面談等で、適切な学習内容・量・方法について一年間継続的に指導する。 (2)遅刻やスマホの扱い方の指導を強化する。 (3)クロムブックを利用したICT教育を推進する。 (4)人権HRなどを通して、周囲への理解や心遣いができるよう指導する。	(1)学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育み、自らの夢や目標の達成に向かわせる。 (2)朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なスマホの扱い方を習得させる。 (3)クロムブックを適切に利用できるよう指導する。 (4)様々な人の意見に触れ、色々な考え方に理解・共感ができるよう指導する。	(1)○ (2)○ (3)○ (4)△	学習習慣に対して日々の学習時間を記録したり、声掛けを継続したりする取り組みは1年間を通して継続できた。遅刻する生徒は配慮が必要な生徒が多く、個々に合わせた指導を心掛けた。進路指導面ではHRを活用して大学調べや文系理系について考えさせ、より将来について具体的に考えさせる取り組みをした。クロムブックについては、初期不良やWi-Fiが繋がりにくい等トラブルはあったが、授業で積極的に活用する先生も多く、初年度としては十分活用できたと感じている。人権に対してはもう少し機会を多く作れたらと思う。
高校2年	(1)学力の向上 (2)生活習慣の確立 (3)HR活動の充実	(1)それぞれの進路目標の実現に必要な学力をつけさせる。 (2)自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。スマホ・携帯の適切な扱い方を習得させる指導を強化する。 (3)HRでの議論をより活性化し、生徒が自らの考えを深めたり、課題の解決に努めることができるよう指導する。	(1)模試成績の向上。 (2)朝礼遅刻を含む遅刻数、スマホ没収事案の減少。 (3)内容をより充実させ、より多くのものを生徒に得させたい。	(1)○ (2)△ (3)○	(1)様々な取り組みも含め、学力の定着を図ることができているので、最終的には生徒が希望する進路の実現に向けて、学年として進めていきたい。 (2)遅刻数、スマホの没収事案が減少しているとは言いがたい。継続的に指導を行う必要がある。 (3)教員がサポートしつつ、生徒主体で議論を進めることができたが、難しさもある。次年度は進路HRもより充実させていきたい。
高校3年	(1)志望大学への現役合格 (2)生活習慣の確立	(1)センター試験対策、大学個別入試対策、小論文指導などの充実 (2)1年間安定した生活習慣	(1)生徒の目標達成に向けて学年全体で取り組む (2)生活習慣の維持に努め(1)の目標達成にも繋げる	(1)○ (2)○	(1)生徒・教員ともによく努力し、きめ細かく丁寧な指導で現役合格者を多数輩出できた。 (2)年間を通して生活指導上の問題は少なく、またむやみな欠席をする生徒もごく少数で落ち着いた学校生活が送れた。

V. 各コース目標(コース会議)				自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
一貫コース進学	大学合格実績の向上	六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂。	模擬試験の結果。最終的な大学合格実績	○	さらに合格実績を伸ばしていきたい
一貫コース選抜	大学合格実績の向上	六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂。	模擬試験の結果。最終的な大学合格実績	○	さらに合格実績を伸ばしていきたい
文理コース文理(理Ⅱ含む)	①国立大学、難関私立大学の進学実績向上 ②入試に活用できる英語検定試験の学力アップ ③クラブ活動への積極的参加	①普通の授業、模試の活用等 ②普通の授業、朝学習等 ③各クラブ顧問と担任との連携等	①国立25% 難関私立大50% (文理全体に対する延べ人数合格率) ②GTECもしくは英検 ③年度初めと年度末のクラブ加入率の差	①△ ②△ ③×	① 国立18.8% 難関私立大29.8% (文理全体に対する延べ人数合格率) 今後も目標達成を目指していきたい ② 今後も継続していきたい ③ 情報共有の徹底ができなかった
文理コースアスリート	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備	大会結果 ①近畿大会(出場・入賞) ②全国大会(出場・入賞) 代表選考結果	○	水泳部:全国大会入賞 ハンドボール部:全国大会出場 バレー部:近畿大会出場 水泳部、ハンドボール部から日本代表として国際大会出場 課題:最低限近畿大会には5クラブ共に出場
英数コース	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、難関国立大学への進学を可能とする学力をつける。 【高3】国立大学を含む、第一志望大学への合格	【高1・2】校風を守りつつ、高い志望への進路の意識付け 【高3】国立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果。 【高3】①センター試験結果。 ②第一志望大学への合格率	①△ ②△	センター試験ではボーダー得点に及ばず、志望を下げての受験が目立った。それでも第一志望をチャレンジした生徒の合格が少なかった。
S英数コース	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、超難関国立大学への進学を可能とする学力をつける。 【高3】難関国立大学を含む、第一志望大学への合格	【高1・2】校風を守りつつ、より高い志望への進路の意識付け 【高3】難関国立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果。 【高3】①センター試験結果。 ②第一志望大学への合格率	①○ ②◎	医学部・獣医学部が100%合格など、生徒が学びたい進路を高いレベルで実現できた。
国際コースクラスA	①国際社会で通用する英語力の基礎作り ②2020年度入試改革に向けての準備の進捗状況の確認	①留学の事前・事後指導の充実 ②GTECなど幅広い英語検定の団体受験の企画	①外部テスト(英検・GTECなど) ②受験後の生徒へのアンケート	①△ ②△	①コミュニケーション英語IIにおいて、ネイティブスピーカーの教員と連携し、一定の成果を得ることができたが、そのことを客観的データとして検証することができなかった。原因は、英検・GTECの全員受験を促進することができなかったことによる。来年度は、英検の全員受験を評価指標として一本化した。 ②文部科学省による2020年度の英語の入試改革が一旦棚上げになったことで、検定試験の受験の方向性を見失ってしまった。来年度は、大学入試に左右されない国際コース独自の評価の基準を外部検定を利用しながらも確立し、同時に大学入試にも強い英語の指導方針を固めていきたい。
国際コースクラスB	①国際社会で通用する英語力の基礎作り ②2020年度入試改革に向けての準備の進捗状況の確認	①留学の事前・事後指導の充実 ②GTECなど幅広い英語検定の団体受験の企画	①外部テスト(英検・GTECなど) ②受験後の生徒へのアンケート	クラスAに同じ	クラスAに同じ

VI. 各部の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
教務部	①新教務内規の完成②留学関係の教務内規の改訂	①教務部教員と学年主任の会議②国際教育委員会との連携	①②1学期中間考査で教務内規発行	①○②○	①②若干発行時期が遅れてしまった。
生活指導部	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③朝礼遅刻を含む遅刻指導 ①②③とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③朝礼遅刻数減少	①△ ②○ ③△	③は配慮が必要な生徒とそうでない生徒の区別が難しく工夫が必要

自治会指導部	①自主規律の確立 ②自治活動の活性化 ③学校行事の発展・教員の役割分担	①自主規律HRの年間計画作成。 ②HR委員会、評議委員会、文体連の役割分担、実務遂行への指導。 ③文化祭委員会の活動計画への指導。各行事の目標を明確化。 事前からの教員業務分担を実施。	①執行部、各委員会活動の年間計画作成 ②活動目標、年間計画、総括 ③各行事の実行委員の獲得と意識化・役割の明確化	①△ ②○ ③○	①執行部に立候補する生徒が減少しており、メンバーの確保に苦労するときもある。日々のきめ細やかな指導が必須である。 ②③特に体育祭や文化祭などの行事では自治会指導部以外の先生方にも役割を分担し、協力を得ることができた。
進路指導部	第一志望合格を実現させる進路指導	①推薦内規(選考順)の検討 ②新センターへの切り替え前年度における入試難化対策 ③大学入試改革などの入試関連情報収集と共有	①安易な選択ではなく3年間の最終目標であるという位置づけ ②計画的な準備と受験に対する各個人の認識を再確認 ③各種講演会等への参加	①○ ②△ ③○	①進路内規策定会議を3回実施し、運営委員会を経て、職員会議で承認された内容で現高2学年から施行することに決定。 ②上位大学への挑戦をするより、滑り止め大学のランクを下げて受験するという傾向が強く、最終的には本人及びご家庭での判断となると、それ以上学校や教員が強制することはできなくなる。 ③日々、入手した進学情報は随時PDF化し、学内で共有できるデータファイルの方に掲載し、月別のフォルダに保存して蓄積していった。

VII. 各委員会の目標				自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国際教育委員会	①ターム留学に関する検討(国際コースクラスA) ②渡米留学志願者の一定数維持(EP) ③姉妹校関係を新たに構築する学校の模索(EP) ④来日する生徒の日本語力強化(中国人留学生) ⑤活動のさらなる拡大(SBS)	①カナダを中心に、他国も視野に入れて情報を集める ②現状のアピール方法を変えて、制度の良さが生徒たちに十分に通じるようにする ③以前繋がりを持とうとしていたスコットランド、新たにニュージーランドなど米国以外の選択肢を模索する ④入試時より日本語を受験科目に加え、来日後もできるだけ一般授業に加わる機会を増やす ⑤活動の組織化(役割を明確に)、集会の実施を増やす、募金の機会を増やす、部員数の維持	①2019年度入学生徒より、希望者に向けて実施(実施は2020年度) ②応募者15名前後 ③候補学校の訪問、連携 ④来日生徒のN3取得(正規入学後の7月) ⑤週1回は幹部会実施、月1度の街頭募金、部員数40名	①△ ②× ③△ ④○ ⑤○	①他国を視野に入れて検討を図ったが、カナダでそのまま留学を延長する形が安全面、費用面でベストであると判断した。クラスAの生徒が様々な形で留学期間を延ばし、各々の都合で帰国・授業に合流するといったことは避けられそう。 ②男子のみの応募というのは非常に宣伝の仕方が難しかった。 ③ニュージーランドの学校が聖公会関係であるなど、提携を結ぶのに相応しいと判断されたが、すぐには難しいという相手校からの返事であった。 ④N3の取得が可能かは今後の試験次第だが、来日していた生徒は順調に日本語の授業で力を伸ばせていた印象。 ⑤部員数も増え、街頭募金も定期的に行うことができた。
ICT委員会	快適なIT環境の整備 ICT教育の推進	①ネットワーク・IT機器の保守 ②タブレット活用法に関する研究	①無線LAN環境、ChromeBookを含め、適切な保守を行う。 ②タブレット導入に伴い、活用方法の研究等を行う。	①○ ②△	①高1が全員でアクセスしようとする、無線LANが対応数を超えることがあった。Chromebookは故障の多発対応に追われた。iPadは、生徒の取り扱いが悪く、破損が多発していた。 ②様々な方法でchromeBookやiPadを活用してきているが、委員会でもまとって研究という形はとれなかった。
入試広報委員会	建学の精神を中心にした広報活動に努める。	中学校訪問や外部説明会の教員負担の公平化に努める	説明会などの広報活動において入試広報委員中心に全教員が協力する。	①○②△ ③○	外部説明会への教員の参加負担が、特定の教員に偏った。公平性を更に実現することが課題。
いのちの教育委員会	①宗教教育に関して 礼拝や祈り、各種行事を通して自他の尊厳を大切にすることを養う ②保健指導に関して 生徒による保健活動を活発にする ③人権教育に関して 社会に存在する様々な人権問題に関心をもち、理解を深める ④いのちの教育に関して 「いのち」の尊さや厳かに触れ、またその神秘を体験的に感じる機会をつくる	①礼拝・行事でのマナー向上 ②行事での救護活動・保護犬活動・各種ポスター作成活動 ③人権HRの年2回以上実施 ④AED講習・いのちの日・響プロジェクト・ボランティア活動・中3カフェテリアの取り組み	○全般的な理解と協力を得ること ○多岐に亘らず丁寧に行うこと	①○ ②○ ③○ ④○	①今年度も変わらず継続できた。 また、宗教と人権教育を併せた梶田学長の講演会を開くことができた。 ②活発に実行できた。 ③実行できた。教室で実施と、梶田桃教大学長の講演会を実施した。高1は4月にコミュニケーションについて、中1はいじめについてのHRを実施した。 ④被災地ボランティア以外の行事はすべて実施された。

VIII. その他委員会の目標(1)				自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
保健指導委員会→いのちの教育委員会に統合	生徒による保健活動	生徒保健委員会の充実 ・2019年度「第67回大阪府学校保健研究大会」で私学担当として発表予定(生徒による発表)	生徒保健委員会の実施内容 ・行事ごとの救護係等 ・保護犬活動 ・熱中症/感染症ポスター作成(中)	◎	生徒が主体的に取り組む豊かな内容のものを実行できた。
生徒支援委員会→生活指導部に統合	支援制度の確立・全教員への理解と認識の強化	①生徒支援理解を目指した積極的な事例研究や研修・情報共有 ②合理的配慮の実施と目標達成に向けた指導 ③自宅学習支援生徒への指導・対応	支援制度や合理的配慮に対する理解・認知 各支援生徒の目標達成具合	○	
宗教教育委員会→いのちの教育委員会に統合	キリスト教の精神に基づき、社会に存在する様々な人権問題について関心をもち、理解を深める。	各学年2回の人権HRを実施する。	各学年での人権教育の実施の際の生徒からの感想文	○	人権HRでは、SOGIハラスメント(性を対象にしたいやがらせ)を防ぐため、短編映画を視聴した。今後、中1から高3までの体系的な人権教育を目指したい。
危機管理委員会	①全構成員の危機管理意識の強化②防災訓練等のさらなる発展	①不審者一時対応の発展②避難訓練の発展	①②訓練が充実したものになったか。	○	5月23日に地震に備えた避難訓練、10月17日に不審者対応の避難訓練を教室で行った。
修学旅行委員会	①一貫コースイギリス修学旅行の代替地の確認②石垣島修学旅行の代替地	①②との委員会で検討し、業者に依頼	①一貫コースとの連携を持ち検討する②は2020年度は伊平屋島と沖縄本島で実施。	○	2019年度の修学旅行は大きな問題もなく無事終了できた。
カリキュラム委員会	新カリキュラム案について理解を深める	教科中心に原案を作成	なし	なし	なし
アスリート委員会	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備、選考会への派遣	大会結果 ①近畿大会(出場・入賞) ②全国大会(出場・入賞) 代表選考結果	○	水泳部:全国大会入賞 ハンドボール部:全国大会出場 バレー部:近畿大会出場 水泳部、ハンドボール部から日本代表として国際大会出場 課題:最低限近畿大会には5クラブ共に出場
予算委員会	①経費削減 ②予算の適正配分と適正執行	予算委員会での議論	委員会での振り返り	○	委員のみなさんの協力により適正に設定できた。
入試委員会	高校入試ガイドラインの見直し	高校入試ガイドラインの見直し	1学期中に結論をだす	○	適正に設定できた。
補導調整委員会	①補導案件の未然防止 ②適正な補導措置の実施	①日常および特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ ②生徒の事情、学年間・案件による差異の出ないよう慎重な議論	①補導案件の減少 ②措置生徒の更正	△	説論が例年よりも増えた。また複数名が関係する事案も増えた。中学の生徒指導主事の役割を検討したい。

M1会議	桃山学院中高の将来像を考える	定期考査ごとに会議を設定し、進路実績の観点から、また校風の観点から、保護者や生徒のニーズという観点から本校の在り方を考える	2019年度中に一定の将来像を描き、2020年には教員全体で共有できるよう努める。	△	M1会議は合計6回開催した。新クラスの創設、中学校の放課後学習などの改善が議題となった。新クラスについてはさらに議論を重ね、2020年度入学生から実施したい。
------	----------------	---	---	---	---

Ⅸ. 各教科の目標					
				自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国語科	教科指導力の向上	①指導法・情報・資料の共有 ②漢字検定・日本語検定 ③小論文模試・小論文講座	①1年次より、状況に応じてその年度具体的な目標設定をしながら学習に取り組める体制、小論文への意識を高め表現力を養うと共に社会への関心を持たせる仕組みを整えていく。②新入試に向けての対応を協議する。	○	漢字検定などを通して、短期の目標設定をしつつ、小論文に対する、3年間を見通しての高1からの取り組みは、形になりつつある。他教科教員への連携を、より深めていく必要があると考える。新入試に向けての対応は、各学年で試行錯誤しながら進めているが、教科全体としての考える機会も必要である。授業見学などを通じて、授業や取り組み事例の共有を通して、教育環境の向上をはかりたい。
地歴公民科	生徒の学力実態・目標に応じた指導力の向上	①新過程・入試改革への対応検討 ②デジタル教材・データの蓄積・共有 ③教科指導力向上	①今後の入試制度・新過程に応じた新カリキュラムの検討・提案 ②電子黒板で活用できる教材の蓄積・入試問題データベースの整備 ③研修・セミナー等への参加促進、授業事例の共有	○	①について、新教科「歴史総合」「公共」についての独自教材づくりに着手している。完成までにはまだ時間はかかるが、新カリキュラムで必要とされる力を養成できるものになることが期待される。②③について、教材や実践例を共有するとともに蓄積をおこなっている。また各種研修・セミナー等の案内をおこない、校外との情報交換をおこなっている。次年度も引き続き、情報共有につとめ、教育資材を蓄積することにより、教育力向上を目指したい。
数学科	教科指導力の向上	①授業見学をより活発に行うとともに、ICTを用いた授業、指導法の研究と充実を図る ②数学オリンピック、数学甲子園への指導 ③教員同士による大学入試問題の研究会	①模擬試験の成績向上、ICT教材・教案の蓄積 ②数学オリンピック、数学甲子園での予選成績の結果 ③参加者の授業評価の向上	△	授業見学は、自主性に任せた結果、多くが活発には行えなかった。ICT教材の蓄積は全くできなかった。数学が他教科よりも良い成績である生徒は多い。しかし、指導法が以前より向上できているかという点は客観的な指標が乏しく評価しづらい。数学オリンピックに参加したが本選出場はできなかった。対策も特にできていない。数学甲子園は出場者がいなかった。教員同士による研究会はお互い学ぶ部分が多かった。今後も続けたい。
理科	生徒の学力・表現力の向上を目標とした指導力の向上	①各種自然科学系オリンピックへの対応 ②新課程・入試改革への対応検討 ③高3講習を全員で担当	①各種自然科学系オリンピックでの結果 ②カリキュラムの検討 ③センター試験の結果	○	科学の甲子園、生物学オリンピック、化学オリンピック予選に出場を続けている。結果は、生物学オリンピックは全国大会出場者が出た。化学オリンピックでは大阪府で表彰された生徒が出た。センター試験は、特に文系では高い平均点であった。理系は文理、一貫進学は厳しい結果となった。少々強引にでも教科書範囲を早くに終わらせ手問題演習を徹底することが求められる。共通テストに向けては、教科内で授業見学を活発に行い、情報共有をしていきたい。
英語科	教科指導力の向上	教科指導力の向上 ・学年・コースでの英語力向上のための指導法の研究 ・2020年入試改革への対応 ・英語4技能検定試験(対策・検討など)	①英語力向上のための指導法が探求されているか②入試改革の情報共有・学内における対応を協議・実行できているか	○	変化が著しい大学入試に対して、それぞれの学年・立場で授業改善に取り組んだ。大学入学共通テスト初年度へ向けて、多岐にわたる取り組み・チャレンジが続いている。学年によって、「現行入試の最終年度＝安全志向」「共通テスト初年度」といったように立場が非常に異なる難しい時期であるが、学校が目指す進学実績向上という目標を達成するために都度つと目線合わせをしていきたい。
保健体育科	教科指導力の向上	授業見学の強化	実技力がしっかりと身につけているか	○	教員同士の授業見学がしっかりとできていて指導力が向上した。今後は新しい種目のスポーツを練っていく。
芸術科	授業力の向上	授業見学の強化	実技力がしっかりと身につく、作品・演奏の質が高まっているか。芸術に親しむ心を養っているか。	△	生徒達は、芸術の時間を楽しんでくれているように感じる。しかし、授業見学は思うようにできなかった。非常勤の先生も多いのでもっと積極的に関わりを持っていきたい。
情報科 技術科	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①授業見学の強化 ②教材の改善・打合せの充実	①実技の指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか	○	教師間の授業見学や、外部機関の研究会・勉強会への参加を積極的に行い、授業力の向上に努めた。次期学習指導要領の改正に向けて、授業で扱う内容の見直しを進めることができた。今後ますますの生徒のICT活用能力の向上を目指す。
家庭科	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①実技の指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか	①○②○	今後も相互に授業力向上に努めたい。
宗教科	①学年毎のシラバスの継続性 ②授業内容の充実と授業力の向上 ③学院方針アイデンティティ教育の実施	①教科会議で打ち合わせを密に ②授業研究を積極的に ③高1の総合(アンデタイムI)で1～2コマ程度行う ④道徳の教科化に向けた検討 ⑤評価方法についての検討	教科会議での振り返り。教務部との調整。	①△ ②○ ③○ ④○ ⑤○	専任一人と非常勤二人の構成なので、教科会議は十分に開催できていないが、その中でも、各学年・担当者間でのシラバスの調整などは毎年行っている。また、道徳の教科化に合わせて、道徳4領域22項目と宗教科で取り扱う内容とが関連づけて捉えられるようにした。加えて、成績評価を担当者および教務担当者間で打ち合わせできた。

Ⅹ. その他					
	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
職員会議	(1)会議の円滑化・時間短縮(2)活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか②必要な情報共有はなされているか。③時間は守られているか。	①△②○ ③○	職員会議では意見が出にくい状況にあるので、担任会、コース会議など小さな会議で意見を収集し、それを共有するようにした。時間が延長することはほぼなかった。
運営委員会	(1)会議の円滑化・時間短縮(2)現場の状況を把握し共有する	①議題の整理②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか②必要な情報共有はなされているか。③時間は守られているか。	①○②○ ③△	①では職員会議という大きな会議の前に担任会・コース会議などでの意見吸い上げるようにした。③数回時間がオーバーしたが、会議の時間は守っている。
M1プロジェクト	各学年の模試などの学力推移の情報共有	①模擬試験の結果がでしだい実施し、コース別、教科別で得意分野、苦手分野を把握。②苦手分野の克服に関して情報交換	苦手分野を克服し、学力向上につながったかどうかを模擬試験ごとに検証する。	○	進学実績向上の方策を検討することができ、次年度につながるものとなった。

判定会議	(1)会議の円滑化・時間短縮(2)活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか②必要な情報共有はなされているか。③時間は守られているか。	○	生徒支援の確立とともに審議される内容が明確化した。その事で議論しやすくなり、問題点が共有できるようになった。
事務室	①業務改善および計画通りの会計業務運営 ②施設・設備保全計画の立案 ③効果的な生徒募集広報の実行	①業務進行の可視化と業務内容の見直し ②具体的な中期保全計画の立案 ③効果的な広報戦略を立案・実行、中高ともに志願者増、予算定員の確保	①業務改善により一人当たりの平均残業時間対前年比マイナス5% ②計画通りの実行及び、突発的な施設設備改修については、予算と優先順位を考慮しての実行 ③予算定員の確保	①△ ②○ ③○	事務室の人員配置体制に変更があり、業務引継ぎの時間を要したこと、また支援金制度の変更に伴い、大幅なシステム変更もあったため、残業時間の対前年比マイナスとはいかなかった。引続き、具体的に項目を見直し、業務を進めていく。
保健室	自尊心の向上 自身の体調管理の徹底	①時間をかけた来室者対応 ②関係各所やSCとのこまめな情報共有と連携 ③健診事後措置(受診追跡)の徹底 ④保健指導強化(ICTの活用・個に応じた対応)	・自尊心の向上 ・健康管理能力の向上	△	要支援生徒に関する情報共有、連携はこまめに実施できたが、日常の来室生徒(特に外科)に関する情報共有がおろそかになってしまった。
図書館	(1)図書館利用と読書の推進 (2)図書館登校生徒への対応の充実 (3)蔵書管理PC更新計画	(1)広報の充実と、進路(大学・職業)調べ資料の充実をはかる。小論文入試対策や、2020入試改革を意識した選書や広報を引き続き行う。 (2)図書館登校生徒に適切なケアを行い、必要な情報をスタッフと共有する。 (3)図書館蔵書管理PCの更新を7月に実施予定。	(1)過去データとの比較 (2)生徒の思いを大切にしつつ、精神的な安定と、教室復帰を目標とする。 (3)2019年度夏期に機器更新を行う。	(1)△ (2)○ (3)○	(1)貸出冊数の増加を目指したい。様々な意味での「読書の意義」を伝えられるように努めたい。 (3)蔵書管理PCと生徒用PC(インターネット検索用)の更新を実施した。
同窓会	中・高教員の会費徴収率の向上	該当教員にたいする声かけ	「桃溪」配布時に実施	×	実施できなかった。
PTA	担当教員の増員により、PTAの体制をより洗練されたものとする。	PTA活動の準備内容等の情報を担当教員、職員、PTA役員保護者として共有する。特に、ネット掲示板を活用してPTA活動の情報を教職員全員で共有する。	PTA担当教職員による振り返り。	○	今年度は学年ごとに書記担当の教員を置く形が取られた。並行する校務との両立の難しさも伺えたが、PTA活動の実態に適したスタイルであると考えられる。